

めでいかすとる

*Médicastre*



「なごみ」

鶴岡地区医師会勉強会抄録

期 日：平成 24 年 8 月 30 日 (休)  
場 所：医師会 3 階 講堂

## 『医療提供体制の課題と将来ビジョン』

山形大学大学院医学系研究科  
生命環境科学専攻医療政策学講座  
教授 村上正泰先生

今年度の診療報酬改定は 6 年に 1 度の介護報酬との同時改定であったが、その中で注目すべきは、社会保障・税一体改革で示された 2025 (平成 37) 年の医療・介護提供体制の将来像を念頭に置き、それを目指した改革の「第一歩」として行われた点である。今後の医療提供体制の改革が大局的に見てこのシミュレーションに沿った方向で進められることは確実であり、これを参考にしつつ、地域特性に応じたアレンジを加えながら、具体化に向けた検討をそれぞれの地域の中で進めていく必要がある。ただし、どのような基準や手法で医療機能を分化させていくのか不透明であったり、病床数や平均在院日数で非現実的なシミュレーションの数字も含まれているなど、不十分な点も多く、その通りになるとは限らない点には留意しなければならない。

急性期医療においては、7 対 1 を算定する病床数が当初の想定以上に増加したことを受け、今次改定でも算定要件の見直しを行うなど、病院の絞り込みを行い、「杯型」から「砲弾型」への移行を進めていくことになっている。一般病床の中には、高度急性期、一般急性期、亜急性期等の機能が混在していると指摘されており、その機能分化も課題となっている。13 対 1、15 対 1 で特定除外制度の見直しが行われたが、それ以外の一般病床においても、長期入院患者の取り扱いが論点として指摘されてもいる。いずれにしても、急性期医療では、集中的な資源投入に見合う形での機能の明確化が求められており、地域の中での集約化は避けられない。

他方、今後の高齢化の更なる進展に伴って、患者の医療ニーズが増大する急性期後の医療提供体制の充実も重要になってくる。病期としての亜急性期は、現在の病床区分では回復期リハ病棟、一般病棟でそれほど急性期ではない病棟、医療療養病棟の中で濃密な医療提供を行っている病棟などに対応しており、必ずしも一致しておらず、今後、亜急性期の位置付けや評価

のあり方を議論していく必要が出てくる。また、慢性期においても、かつての療養病床と比較して、医療の必要性の高い患者に対する入院機能の明確化に加え、急性期医療や在宅医療の後方支援機能の強化が求められる。急性期後の病床機能には当然のことながら重複する部分があるものの、いずれにおいても質の向上が重要であり、在宅復帰率の向上や平均在院日数の短縮が進められることになるであろう。改革シミュレーションには、急性期から慢性期まで横断的な機能を有する「地域一般病床」の創設が盛り込まれており、注目に値するが、これまでのところまだ議論は行われていない。

今後の医療提供体制の改革の中で重要な柱が在宅医療の推進である。今次改定で、単独で要件を満たすことができなくても、複数グループ化して機能強化型の在宅療養支援診療所（または在宅療養支援病院）となるのが可能となったことは評価できる。在宅医療の体制としては、狭義の自宅だけではなく、サービス付き高齢者向け住宅の整備も含めて考えられており、それらの場で医療サービスを外付けで提供していくことも進められていくであろう。ただし、定期巡回・随時対応型訪問介護看護などで厚生労働省が描いている地域包括ケアの姿はどちらかと言えば都市型であり、地方においては既存の医療資源を有効活用した体制構築が不可欠である。また、入院医療からの退院支援の取り組みも次第に進んできてはいるものの、病院によって差が大きく、一層の機能強化が必要である。

急性期病院、後方病院、在宅医療の機能分化とそれぞれの体制づくりを進めていこうとすれば、地域の中でそれらをつなぐ連携ネットワークの構築が不可欠である。その際には介護サービスも含めて連携のハブとなる拠点機能の整備が重要となる。この点で、鶴岡地区医師会などが積極的に取り組んでいるように、地区医師会の果たすべき役割は大きい。

## エー(A) 会員になりました

奥山皮フ科

奥 山 泰 裕



鶴岡地区医師会の皆様、平素より大変お世話になっております。昨年 8 月に帰鶴し皮膚科を標榜させていただいている奥山泰裕です。

帰鶴当初は、母が診療していた鳥居町の奥山皮フ科にて働き、その後昨年 11 月に同じ五小学区内の切添町、東高前へ奥山皮フ科を移転しました。高校を卒業して以来山形を離れ 20 年弱。その期間は医業を学ぶと言う意味では短かったのかもしれませんが、時間としては長く自分が過ごし遊んだ町はずいぶん変わっていることに戸惑い、出不精の自分は土地勘を戻すのに時間を要しました。自分が通っていた店はほとんど無くなってしまいました。今まで住んでいた町には無かった『産直』というものがあちこちに建っており、地産地消に心がけつつ、旬の食べ物を感じ食し暮らしております。鶴岡市は全国で 7 番目に面積が広い市というのは伊達ではなくそれぞれの『産直』で置いてあるものに特徴があり、それを見ながら地物の野菜というものを食べ巡っております。

私は大学を卒業して以来、趣味や運動から遠ざかり太ってしまいました。この自然多い鶴岡に帰ってきたからにはいろいろなことをやりたいと思っています。とりあえずこの一年は雪かき上手になったということと、家庭菜園を試してみました。昨年度は毎日毎日よく降る雪をどけ、道路の除雪された雪塊をどけ、地吹雪に呆然としながらも、近隣の方々に手伝ってもらい

冬を乗り越えました。今年は雪が降らないでほしいなと思いつつ、雪かきを楽しんでいた自分がいます。

また私が子供の時に父母が仕事の合間に家庭菜園をしており、何が植えられていたのかは覚えていませんが、それも見習い新居の庭で家庭菜園を始めました。今年が一年目ですので土をひっくり返し、石をのけることから地道に行い、肥料をまき、母に聞きつつ種・苗を植えました。結果としては今のところ豊作！ トマトにきゅうりに茄子・トウモロコシ。これからは唐辛子とだだちゃ豆にゴーヤ・落花生が収穫できるでしょう。一部枯れてしまった種もありましたが、子供に収穫を体験させつつ食べる分には十分満足得られる結果が出ております。来年はもう少し畑を広げ、ズッキーニやアイスペラントなどの産直では見かけるもののスーパーでは手に入りにくいものを作りたいなと思っています。

他には登山をしようと靴を購入し、金峰くらいから登ろうかなと考えつつ、マダニ咬傷や蜂刺症で受診される人たちを見て尻込みし実行に移せていません。まず羽黒山の階段と月山のロープウェイで山頂に到達し、気分を高めて行くことから始めていきたいです。

まだまだ至らぬ若輩者で、出不精なわたくしではありますが、今後も皆様方の御指導・御鞭撻のほどよろしく願いいたします。

期 日：平成 24 年 9 月 1 日(土)～2 日(日)  
場 所：東京国際フォーラム

## 第 53 回 日本人間ドック学会学術大会

### 接遇向上への取り組み ～受診者満足度調査と職員自己チェックシートを用いて～（第 2 報）

(社)鶴岡地区医師会 荘内地区健康管理センター

○阿部 優希 今野 篤子 伊藤 清美  
佐藤 友紀 中村 美仁 渡部 恵美

#### 【目的】

職員の接遇向上への取り組みについて、第 51 回人間ドック学会で報告をした。その後の接遇に対する意識についての変化を再度調査したので報告する。

#### 【対象・方法】

平成 22 年 1 月～3 月の人間ドック受診者を対象に接遇への満足度調査を行った。同時に、携わる職員がチェックシートを用いた接遇の自己評価を実施し、満足度調査と比較することにより、受診者のニーズと職員の意識のズレを把握した。その結果を基に改善策の検討を行い職員にフィードバックし、平成 23 年 12 月、満足度調査、自己評価の再度実施と検証を行った。

#### 【結果】

今回の受診者満足度調査及び職員の自己評価共に高い評価が得られた。1 回目と 2 回目の満足度調査を比較すると、「あいさつ」、「言葉づかい・話し方」、「検査の説明・対応」、「身だしなみ・服装」の評価が上昇した。前回課題であった「検査の説明・対応」、「身だしなみ・服装」では、改善策として服装マニュアルの作成や社内教育委員会による接遇研修会等を行った結果、「笑顔があってよい」、「スタッフの方々の説明等も親切で良かった」等、好意的な結果が得られた。反面、「態度・接し方」、「案内の仕方」では評価が下がった。職員の自己評価はどの項目も評価が上がり、意識の向上が見られた。

#### 【考察】

「身だしなみ・服装」の評価が受診者・職員共に上昇した理由として、前回の調査後に身だしなみ・服装のマニュアルを作成したことによる意識の統一が図られたためと考えられる。評価が下がった「案内の仕方」については、平成 23 年 4 月に新健診センターがオープンしたことにより、検査室がわかりづらい等の指摘があったため今後改善が必要である。

#### 【結語】

受診者満足度調査で高い評価が得られたが、案内がわかりづらい等、新たな課題も明らかになった。今後も状況に応じた改善策の検討と職員自己チェックを継続し、接遇向上に努めていきたい。

## 健診システムによる健診精度向上と今後の課題

(社)鶴岡地区医師会 荘内地区健康管理センター

○佐藤 洋介 斎藤 一 伊藤 祥晴 山口世維子 工藤 智美  
菅原 翼 亀井 誠 田村 安 榊川 睦子 木村 由美

### 【はじめに】

2008年4月に本格稼働を開始した健診システム（以下システム）について、これまでの評価を行いシステムが健診精度の維持向上にどのような影響を与えているか、またシステムへの依存度から浮き出た今後の課題について報告する。

### 【経過】

2006年よりシステム構築を検討し、業務ペーパーレス化、リアルタイムな情報共有、全検査装置のオンライン化、採血管準備装置の導入、健診システムと連動する画像PACSの導入などを実現することができた。その他機能も効率化を図り、インシデントの発生元を中心にシステム化を行うことで健診全体の精度向上を目指し、さらに読影機能部分では読影医の意見を積極的に取り入れ読影精度の向上も視野に入れた。

### 【まとめ】

今回のシステム更新は、年々複雑化する依頼側の要求や、多様化している各種健診への「正確かつスピーディーな対応」という大きな課題に対し、ハード・ソフト両面において健診精度向上に一定の成果があった。特に導入メーカーの協力によりデータベースが公開されたことは、Access等のサブツールを使い自由に抽出機能を作成することが可能になり、予約から請求まで一連するシステム運用において精度の高い確認作業が出来る様になった。

また、システムを通して様々な情報がリアルタイムで共有できるようになったため、職員同士のコミュニケーションツールとして業務連携の核になっている。

効率や精度の向上を実感する一方で、システムへの依存度が高いことから職員による操作ミスがアクシデントに直結する危険性も考慮しなければならない。これを受け、昨年度は職員のPCリテラシー教育の一環として勉強会を実施した。

またシステムダウン時の対応マニュアルを具体化し職員全体で共有していく必要がある。



## 第 21 回 医師会納涼ビアパーティー

期 日：平成 24 年 8 月 3 日 (金)

場 所：グランド エル・サン

第 21 回医師会納涼ビアパーティーが、8 月 3 日 (金) にグランドエル・サンで開催されました。今年のテーマは、メダルラッシュで盛り上がるオリンピックにちなんで「Go! London!!」に決め、料理メニューから実行委員の衣装までテーマに添って準備いたしました。

今年度から保険福祉委員長に就任された佐藤孝司先生から開会の挨拶を頂き、三原一郎先生から会長挨拶を賜りました。伊藤末志先生からの乾杯のご発声で宴が始まりました。

はじめに、オリンピック開会式の選手入場のごとく、保険福祉委員の先生方および納涼ビアパーティー実行委員が入場しました。新人職員による余興の衣装やダンスなどはプロさながらで、大歓声をうけ撮影者が押寄せ圧巻でした。大抽選会では、抽選者をくじ引きで決め、より厳正に抽選が行われました。皆さんの注目の中、次々と当選が決まり、歓声で盛り上りました。フィナーレでは、福原晶子先生よりご提案頂いた「がんばろうニッポン 愛は勝つ」を参加者全員で大合唱しました。最後に石原良先生から閉会の挨拶を頂き閉宴となりました。

今年も 300 人を超える参加があり、共有の思い出として楽しい一時を過ごされたなら幸いです。

実行委員長 小松 紀子





今回は医師会納涼ビアパーティーという華やかな場で、新人職員がダンスを踊る機会を頂きありがとうございました。ダンスの練習は、1ヶ月以上前から昼休みや夕方の空いた時間を利用し練習してきました。時にはダンスの構成などで悩むことなどもありましたが、「ダンスを成功させたい」という思いから徐々に新人職員の団結力も高まっていきました。

当日は大勢の医師会職員の方々の中で踊ることにとっても緊張しました。会場の方々から盛り上げて頂いたお蔭で無事ダンスをやり遂げ、成功に終わることが出来ました。新人職員一同今後ともよろしくお祈りします。

最後になりましたが、実行委員のみなさまお疲れ様でした。

湯田川温泉リハビリテーション病院 リハビリテーション科 作業療法士 大野 裕美

# マイペット & マイホビー

— 第 81 回 —

## アルファロメオと私 vol.1

伊藤耳鼻咽喉科医院 伊藤 茂彦

アルファロメオって知っていますか？ ロメオ…その名前からわかる通りイタリアの車ですよね。私が所有している1968年型の1300GTジュニアもそのアルファロメオ社の車です。以前から、この車のフロントの盾型グリル、ジョルジェット・ジウジアーロのデザインによる流れるようなボディーラインが気に入っていたのですが、こんな旧車を買っても維持するのが大変だろうし、保管場所も必要です。まさか自分が購入するとは思いませんでした。



6年前、鶴岡に帰郷し、家内にも車が必要となり、彼女は形と色だけでアルファロメオGTという車を選び購入しました。私は、家内と違い歴史やエンブレムの意味など詳しく知りたくなる性格でアルファロメオを調べれば調べるほど奥が深く思いも深まり、とうとう冒頭に説明したアルファロメオを手に入れたのです。

私が、子供の頃スーパーカーブームという一大ブームがありました。アルファロメオには、1967年モントリオール万博に出展された「モントリオール」というスーパーカーがありよく雑

誌でも紹介されていました。日本では10台輸入され、当時サラリーマンの平均初任給が4万円程度だった頃に770万円もしたらしいのです。現在も、2,200万円以上する「8Cコンペティツィオーネ」というスポーツカーを出しています。このあたりになると欲しくても手も足も出ませんが、大学時代の親友は購入済みです。

アルファロメオはもともとアルファロメオ社としてゼロから立ち上げた会社ではなく、フランスのイタリアーナ・ドラック社がミラノに持っていた工場の資産・設備をミラノの企業化集団が買い取って、マネージングディレクターだったウーゴ・ステラが長距離ツーリングやレースに最適なスポーツカーをデザインするようにジュゼッペ・メロージ（アルファ最初の設計技師）に指示して1910年に立ち上げたもので、それがイタリア人による初の自動車会社となります。

最初の名前は、ロンバルディア自動車製造会社 = A L F A : Anonima（有限会社）Lombarda（ロンバルディアの：ミラノ周辺の地方名）Fabbrica（製造工場）Automobili（自動車）として創立され、この頭文字をとってA.L.F.A.社となります。しかしまだロメオの文字はありません。その後、1915年にニコラ・ロメオという人物がA L F A社を買収します。ここでもまだアルファロメオ社にはなっていません。その時の会社名はニコラ・ロメオ技師有限会社。当時「アルファロメオ」というのはクルマの商品名でした。その後、株式会社になりいくつかの曲折を経て、1948年にやっと「アル



ファロメオ株式会社」になりました。そんなアルファロメオ社ですが、1986年フィアットに吸収され、アルファロメオ社は独自で車を設計できなくなってしまったのです。アルファロメオのみならずランチャやフェラーリも今やフィアットという巨大企業の傘下なのです。悲しいことに、現在のアルファロメオは「アルファロメオ」という会社が製造した車ではないのです。フィアットに吸収された当時のアルファロメオ社の経営状態は、半国営の会社なのに散々たる状況でフィアットは一度、アルファロメオの引き取りを断ったそうです。そこに目をつけたのがアメリカの巨大企業フォード。しかしフォードの話聞いたフィアットが「アルファロメオはイタリアの魂。アメリカには渡さない。」と無事フィアット傘下に収まったらしいのです。

F1で人気のフェラーリ。あの跳ね馬に憧れる方も多いでしょう。フェラーリがアルファロメオと関係があるのは知っていますか？ フェラーリの創始者のエンツォ・フェラーリは、アルファロメオがレースに参戦していた時、アルファロメオチームのドライバーだったのです。レーサーとしては、飛びぬけた才能はなかったようですが、今ではフェラーリの方がネームバリューを持っています。彼にはレーサーより経営者としての才能があった様ですね。

ところで、アルファロメオの象徴であるエンブレムは現在も基本的には設立時のものと同じですが、時代とともに多少変化しています。みなさんは、アルファロメオのエンブレムを見たことがありますか？ なんと赤い十字架の横で人が大蛇（別説ではドラゴンとも）に飲み込まれているのです。このエンブレムの由来は、諸説あるようです。アルファロメオとかミラノの市章の赤十字は、十字軍に参加して最初にイスラエルの城壁に十字架を立てた人物（ジョバンニ・ダ・ロー）に因んでいます。蛇のマー

クはヴィスコンティ家の紋章ですが、①ヴィスコンティ家の初代当主（オットー・ヴィスコンティ）が十字軍に参加した際に殺したイスラム兵士の盾に付いていたマークを自分の家の紋章に使った。②森の中でドラゴンに呑み込まれそうになっている少年を、ヴィスコンティ家の勇者が助けたという伝説。③人を飲み込む蛇はミラノ公・ヴィスコンティ家（十字軍）の象徴で、食べられている人は少年。聖地を冒涇する異教徒・サラセン人で「十字軍がサラセン人を退治している事を表している」とも言われております。このようにヴィスコンティ家の紋章については俗説も多く、確かなことは解りません。イタリアの歴史に詳しい方がいたら教えて下さい。



世の中では、アルファロメオを心底愛するオーナーのことを「アルフィスタ」と呼び、アルファロメオのエンジンが奏でるエキゾーストノートを「アルファサウンド」と呼ばれています。アルファロメオのオーナーになり、改めてアルファロメオというクルマの持つただならぬ世界に感慨を覚えました。今ではフィアット社の傘下に入っていますが、魅力的なスタイリングと官能的なエンジンフィールは、1世紀を迎えたアルファロメオの歴史のなかに脈々と受け継がれています。かなりマニアックな話になってしまいましたが、アルファロメオに興味を持たれた方、一緒に「アルフィスタ」になりませんか？

# 明治二十一年六月三日

鷗外「ベルリン写真」の謎を解く

山崎光夫著

評 黒羽根 洋司

一瞬を刻んだ写真が、時を経て人びとの想像力を喚起することがある。だが、そのイメージーションを壮大な物語にかえることは至難の業である。1888（明治21）年6月3日、ベルリンに集った留学生を撮影した一枚の記念写真は、優れた書き手によって、日本の医学の黎明期れいめいを活写するものとしてよみがえった。

計19名の日本人医学者が異国ドイツのフリードリッヒ写真館

に集合しての奇跡ともいえる瞬間。昔、写真を撮ると魂まで抜かれると恐れられたというが、彼らの野心あふれる魂は、その面構えにしっかりとあぶり出されている。それもそのはず、彼らはいずれも国家を背負い、近代医学の発展に尽くした選ばれし者たちであった。

中列の一番左端に、唯一軍服姿で立つのが森鷗外である。写真では末席だが、本書では中心に据えられ、鷗外とのなかちやうたくからそれぞれの人物の実像が彫琢される。

大正天皇の侍医がいる。公衆衛生の父と呼ばれる優れた教育者がいる。裁判医学を



本書より（東京都文京区蔵）  
講談社 2,200 円

法医学として確立し後年、初代教授となる人物がいる。時に死体と入浴して死体を清めてから解剖に入ったという解剖学者がいる。わが国産婦人科学の始祖、あるいは眼の神様と呼ばれる方技の達人たちもいる。地域医療に身を捧げた開業医がいる。

華やかな留学の陰には悲哀もある。二度と故国の土を踏めなかった者、若くして世を去り、帰国後の活動ぶりが見えてこない未完の

人たちもいる。

鷗外の終生のライバルとなる人物もいれば、最良の親友もいる。前者は日本医学界の二つの潮流（東大派、慶大派）の争いと脚気病因論で、手ごわい論敵となる北里柴三郎である。軍医としての昇進を競った鶴岡市出身の小池正直もその一人。後者は、鷗外が遺言を託した心服の友・賀古鶴所だ。

19枚のピースと、4人の鷗外ゆかりの人びとというフレームで再生された写真から、わが国の近代医学誕生の熱い息づかいを感じてみてはいかがだろうか。

「山形新聞 9月2日 書評欄掲載」

### － 著者と私 －

2008年5月より翌年の12月まで、私は山形県医師会会報に「庄内の医人たち」というタイトルで評伝を連載しておりました。同じ頃（厳密には2007年10月号から2010年6月号まで）、大塚製薬の医家向け広報誌である『大塚薬報』に、毎号読むのを楽しみにしていたシリーズが載っておりました。山崎光夫氏になる「森鷗外と医学留学生たち—日本近代医学の源流」と題した、医史ノンフィクションでした。的確な傍証と精緻な描写は、素人による評伝をはるかに超える優れたものでした。

私が森鷗外の終生のライバルである小池正直を取り上げる際に、どうしても欲しいディテールが見つからず苦労していたのはその頃でした。東大卒業時の成績が8番であった鷗外と対比させるためには、どうしても小池の席次が必要だったのです。文豪の席次については、それが原因で卒業直後の海外留学を果たせなかった、という事実から広く知れたことでしたが、小池のそれは私の乏しい資料からは見つけることが出来ませんでした。

そこで、私は思い切って山崎氏に手紙を差し上げ、小池正直の席次が9番であったことを教えていただいたのです。これで二人が学業成績の上でも雁行していたことを明らかにすることができ、描いた竜のように瞳が入れられました。

私と山崎光夫氏を結びつけたのも、ベルリン写真がもたらした、およそ120年を経たの奇跡だったのかもしれません。

このたび、「明治二十一年六月三日—鷗外「ベルリン写真」の謎を解く」と名を変えた立派な本が、私のもとへ謹呈されてきました。そればかりか、主要参考文献の一つに拙文が載せられていることに驚きました。疑問を快く解いてくれたことや、丁寧な遇してくれたお礼もさることながら、この面白い医家評伝が広く読まれることを

願って書評にまとめました。日本近代医学の歴史を読み解くばかりでなく、優れた医人たちの姿勢を学んでみてはいかがでしょうか。「要するに、医は患者の幸福を図るのが目的である。いたずらに病を攻撃することだけを能事とするのは真の医者態度とはいえない」（浜田玄達）や、「今日は寒い、今日は暑い、今日は不快と言っているのは学問をする日がない」（田口和美）といった珠玉のような言葉が散りばめられています。私たちの立ち位置をあらためて教えてくれる良書です。

### 著者紹介

#### 山崎光夫（ヤマザキ ミツオ）

1947年福井市生まれ。作家。早稲田大学教育学部卒。テレビ番組の構成、雑誌記者などを経て、1985年「安楽処方箋」で小説現代新人賞を受賞し、同年短編「サイレント・サウスポー」で直木賞候補、1986年「詐病」「ジェンナーの遺言」が連続で直木賞候補となる。1998年「藪の中の家—芥川自死の謎を解く」で新田次郎文学賞受賞。医学を題材にした作品が多い。森鷗外記念会評議員を務める。

著書に「日本アレルギー倶楽部」「メディカル人事室」（ともに講談社）、「東京検死官—三千の変死体と語った男」（講談社文庫）、「サムライの国」（文藝春秋）、「日本の名薬」（文春文庫）、「東京ビー玉くらぶ」（角川書店）、「精神外科医」（中央公論社）、「ドンネルの男—北里柴三郎」（東洋経済新報社、のち「北里柴三郎—雷と呼ばれた男」と改題して中公文庫）、「健康の天才たち」「戦国武将の養生訓」（ともに新潮新書）、「老いてますます楽し—貝原益軒の極意」（新潮選書）などがある。

現在、大塚薬報に「戦国時代千夜一夜—益軒が殿に語った歴史夜話」を連載中。

## 故 福原 美和子 先生の御冥福をお祈り申し上げます。

平成 24 年 8 月 4 日ご逝去 享年 84 歳

### 弔 辞

福原美和子先生。先生は、夏の炎天下、猛暑が連日続いている最中の去る 8 月 4 日の早朝、忽然として永眠されたという悲報をお聞きし、我が耳を疑いました。先生は、体調を崩されてご療養中とお聞きしていましたが、余りにも突然なことであり、誠に残念でなりません。私ども会員一同は、早く元気に快復されることをお祈りしておりましたが、医療関係者の懸命な治療とご家族の看護もおよばず、本日ここにお別れしなければならないことになったことは、誠に哀悼の極みであります。

ここに弔辞を捧げ、医師会会員並びに職員一同心からご冥福をお祈り申し上げます。

顧みますと先生は、新潟市のご出身で、昭和 25 年 3 月に福島県立女子医学専門学校をご卒業されると、新潟鉄道病院に半年ほど勤務され、その後昭和 27 年から 36 年 3 月までの 9 年間は新潟県立加茂病院小児科において勤務されました。その病院で勤務中に上司である教授から鶴岡の荘内病院を紹介され、昭和 36 年 4 月に荘内病院眼科に赴任し、そこで 42 年 12 月まで 6 年 9 カ月にわたり奉職されました。荘内病院を退職されたのは、ご主人である福原昭平先生と共に新潟に戻らないで、ここで開業しようと決心をされ、43 年 3 月に現在地に開業されました。

以来、開業医として地域医療活動を積極的に展開され、特に鶴岡市の母子保健事業として、4 カ月児健診、7 カ月児健診、3 歳児健診の健診医として 40 年にわたる長い間、貢献されました。また、感染症予防と蔓延防止を図る鶴岡市の予防接種の推進についても、小児科医師団の中心として活躍され貢献されました。

このように先生の長きにわたるご活躍とご功績に対し、平成 15 年には山形県知事から保健衛生功労者として、表彰状の授与が行われました。

この栄えある表彰は、地域の皆さんから長きにわたり信頼され、絶大な安心感を持たれ、地域医療に取り組みされてきたことを裏づける証しでもありますし、また、それは、ひとえに先生の温厚、かつ、極めて高潔なお人柄が認められた証しでもあると思われま

改めて、ここに敬意と感謝を申し上げます。

お聞きしますと、先生は健康には特別に気を使っていらっしゃるようで、心の健康には茶道を習い、お茶の催しがあると正座に音をあげる方がおりますが、先生は 2 時間ぐらい正座しても平気だったようです。それと、歩くことです。外出や買い物、鶴岡市の健診の際にも歩いて行くのが、先生の健康法でした。

先生が職業に対して真摯に取り組みされてきた姿勢と趣味を通じて心を打ち込まれてきた生涯に敬服を感じる次第です。

美和子先生、長い間のご教導誠にありがとうございました。

最後に、本日のご葬儀に当たり、先生のご逝去を悼み、また、生前の輝かしいご功績とご遺徳を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げ、お別れの言葉とします。

どうぞ、先生、安らかにお眠りください。

平成 24 年 8 月 6 日

鶴岡地区医師会

会 長 三 原 一 郎

## 表紙

## 「なごみ」

伊藤 末志

5月の連休に佐久市から鎌倉へ日帰りの旅をしました。新緑の時期なので9月号の表紙にはどうかと思ったのですが、あまりにも可愛いお地蔵さん達だったので載せてもらいました。長谷寺の境内です。見るだけで心が癒されませんか。

## 編集後記

今年度“めでいかすとる”の編集委員を拝命しました斎藤です。よろしくお願いします。

8月4日福原美和子先生がお亡くなりになりました。地域医療に多大な貢献をなされた先生だけにとっても残念でなりません。こころよりご冥福をお祈り申し上げます。

さて、今年も恒例のビアパーティーが盛大に行われました。飲めや唄えや大盛況だったようです。この夏は特に暑くさぞやビールがおいしかったことでしょう。最後はKANの「愛は勝つ」をみんなで熱唱しました。

医師会勉強会では、山形大学大学院医学系研究科の村上正泰先生より社会保障・税一体改革が目指す医療についてご講演いただきました。今現在の一般病床のあり方を見直して、より一層こまかく一般病床の機能分化を目指し、そのうえで介護機能再編をしてゆく将来のビジョンを説明していただき、大変勉強になりました。

マイペット&マイホビーでは、伊藤茂彦先生のアルファロメオに対するこだわりや知識にとっても感服いたしました。

だんだん少しずつ秋の気配が感じられるようになってきました。季節の変わり目、皆様方には体調管理には十分注意して過ごされますように。

(斎藤 高志)

編集委員：伊藤 茂彦・福原 晶子・石原 良・中村 秀幸・斎藤 高志・今立 明宏

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

URL <http://www.tsuruoka-med.jp>